

## 2023年度 社会福祉法人ヘルプ協会 法人事業報告（案）

### 1. 社会福祉法人ヘルプ協会の事業を全職員で具体化する取り組みを行います。

法人理念である「協同と信頼を基盤に人間の尊厳と人権を守る」を各事業所のケアにおいても具体化する取り組みを行いました。「私たちのケアの中心には常に利用者様・入居者様・家族様」がいることを念頭に各事業所においても介護者中心のケアになっていないか等の確認をすることでケアの見直しをおこないました。毎月の本部会議や管理者会議においても法人全体の課題を出し合い、またその内容を必ず各事業所の会議で報告することで全職員が事業運営に携われるようにしました。

法人本部体制も少ない人員ながらも常に開かれた風通しの良い本部を意識し、全職員への発信力を強め、各事業所の課題もともに向き合う姿勢を大切にしました。

3月に実施した第2回職員実践発表会では、各事業所が1年間取り組んだ内容をパワーポイントで報告しました。年々内容が充実してきており、伝える内容に涙あり、笑いありで職員1人1人が思いを共有できた貴重な時間となりました。

### 2. 安定した職場環境を作り出し、職員定着を図る取り組みを行います。

今年度は、退職者11名、入職者12名でした。

特に特養においては、SNSの活用や紹介会社等を使用し採用活動に注力しましたが、年間通じて人員不足が生じ、休日出勤や連勤がままならない状況で、疲弊する職員の姿がみられました。

少ない人員の中でも大きな事故もなく、安全にケアを行えたことには、職員1人1人の意識の高さであると感謝しています。働く職員を大切に、人が辞めない職場作りは、今後も中心課題とします。

労務管理について、今年度は大きな目標を2点掲げました。1点は、勤怠管理の電子化と書類整備です。2点目は、就業規則と給与規定等の改定です。顧問社労士の指導のもと、労働基準法に則った働き方を見直し、フレックス勤務を取り入れることで残業時間の軽減、働きやすい職場環境にもつながりました。また電子化したことにより勤怠管理の事務作業の軽減にもつながりました。

就業規則や給与規定の改定については、時代に則った大きな改革をしました。65歳からの再雇用（ハッピー職員制度）を設立、ハッピー職員の労働条件を検討していく中で、解決すべき課題も明確になり、職員全員が不公平にならない制度を作ることで、職員のディーセントワーク（生きがいのある働き方）を大切にする制度になりました。

### 3. 全事業の経営改善を図り、将来に続く安定した経営を行います。

顧問税理士の指導のもと、資金運用について適正化を図るとともに毎月の本部会議や管理者会議にて9つの経営指標や月次決算推移表を基に経営の数字を見る力を養い、経営改善を話し合ってきました。5類になったとはいえ、コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症等の影響を受け、厳しい経営となりましたが、経費削減に取り組んだ成果が表れ、経常増減差額は、昨年よりも2,000万円ほどプラス

になりました。職員の処遇改善を目指し更なる努力が求められ、また、計画的な修繕計画の実施も急務となっています。

令和5年3月に法人内に設置した弁護士・公認会計士・福祉関係の学識者の3名からなる第三者調査委員会から、9月に、適正な法人経営のガバナンスにつなげるべく調査報告書が提出されました。専門家の目線で、法人が取り組むべき課題や方策が示唆されました。

法人本部会議を中心に話し合いを深め、また管理者会議でも課題について話し合い、諸規程の見直しの実施など、職員全員が前を向いて、改善に取り組んできた下期となりました。

令和6年2月～3月にかけて、新役員による監事監査が実施され、法人本部、ぐる～りあ建物の事業所の体制の整備や運営基準、労務管理について多くの示唆を得る機会となりました。

サ高住の賃料値下げ交渉は、調停から令和5年5月訴訟へ切り替え、令和6年7月には不動産鑑定士による鑑定結果が出される予定です。損害賠償請求訴訟について継続中です。

中長期計画策定委員会は開催できませんでした。

#### 4. 連携の取り組みを進めていきます。

三法人初任者研修も9月から3カ月間実施することができ、8名の受講生が無事に卒業しました。ZOOM等を使用しての三法人の会議から、対面での会議や研修、内部監査も実施できるようになり、対面で実施することで事業所間の関係性も深まり、日々、課題等についても相談、確認もできるようになりました。デイサービスやサ高住部門でも、三法人事業所の見学や運営課題の共有など、刺激をうける良い機会になりました。

月1回の北園自治会の会議に参加、清掃活動など職員ボランティアで参加、市内の地域活動については、コロナウイルス感染症が5類になり、一気に再開され、地域の夏祭りや秋祭りに、参加された特養の入居者様の笑顔も見ることができました。

#### 5. 法人全体の事故・苦情報告

入院等が伴う大きな事故	1件（サ高住にて職員と出合い頭の事故により転倒し、大腿骨骨折された。）
伊丹市報告事故	1件（訪問介護員が座薬を目薬と間違えて点眼した）
法人本部も関わった苦情	無し

#### 6. 年間法人研修内容

5月	口腔ケアと嚥下機能
7月	大人の発達障害の捉え方
9月	緊急時の対応（AEDを含む）
12月	倫理・虐待・ハラスメント
2月	コミュニケーション能力向上

※その他、2か月に1度研修委員会の研修広報誌発行。

#### 7. みんなのたより 発行 年4回（4月・7月・10月・1月）

### 1. 法人全体事故件数について

業務事故	76 件
軽微介護事故	36 件
入院・治療が必要な介護事故	1 件
重大介護事故	0 件
車両事故	6 件

### 2. 法人全体苦情件数について

・苦情件数：12 件 ※ 本部対応の大きな苦情はなし

### 3. 委員会活動について

委員会名	開催回数	内 容
・安全衛生委員会	月 1 回/第 2 水曜日	職員安全衛生の確認、研修
・事故・苦情・虐待委員会	月 1 回/第 2 金曜日	法人内事故・苦情・虐待の報告と検証
・BCP 委員会（災害・感染）	月 1 回/第 3 金曜日	事業継続計画策定・研修、訓練の実施
・研修委員会	月 1 回/第 4 金曜日	法人研修開催・法人内研修広報誌作成
・編集委員会	随時	法人報告紙作成・ホームページリニューアル

### 4. 法人全体の研修及び、訓練の取り組み

#### 『法人研修』

日 時	内 容	参加人数
5 / 1 9	「口腔ケアと嚥下機能」 講師：歯科衛生士 小田見也子氏	5 9 人
7 / 1 2	「大人の発達障害の捉え方」 講師：兵庫発達障害者支援センタークローバー宝塚ランチ 坂根 遥氏	5 3 人
9 / 1 1	「緊急時対応 AED」 講師：伊丹市東消防署 2 部警防隊	5 8 人
1 2 / 7	「倫理・虐待・ハラスメント」 講師：兵庫県介護支援専門員協会副会長 友清正雄氏	6 6 人
2 / 1 3	「コミュニケーション能力向上」 講師：社会福祉法人三翠会 統括施設長 前川 嘉彦氏	6 6 人

#### 『BCP 事業継続計画実施訓練』

- ・三法人防災訓練実施 1月17日に実施
- ・防災BCP机上訓練 設定を同じにして各事業所の研修にて
- ・感染BCP机上訓練 設定を同じにして各事業所の研修にて

『職員実践発表会』

- ・3月22日 「それぞれの事業所を知る」をテーマにしての各事業所のプレゼン発表  
参加人数：58名

6. 入職・退職について (2023年度)

	正職員	パート職員	総数
入職数	7人	5人	12人
退職数	5人	6人	11人

7. 現在の職員総数 (2024年3月末)

常勤	パート	登録ヘルパー	総数
61人	65人	54人	180人